



第3期 左京区基本計画（素案）本冊



自然



文化



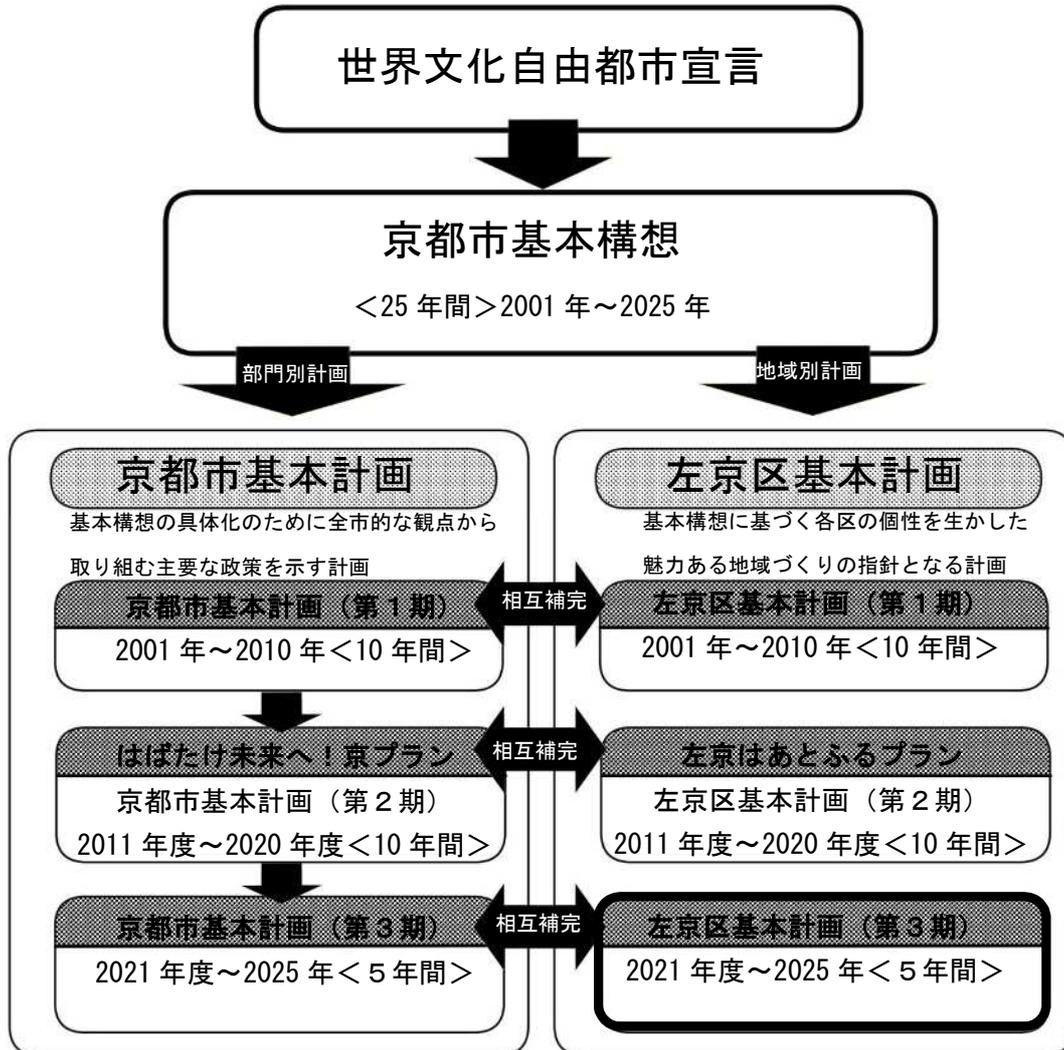
ひと

目次

第1章	はじめに	1
1.	計画の位置付け	
2.	計画の特徴	
第2章	左京区の概況	2
1.	左京区の誕生	
2.	地勢・自然環境	
3.	歴史・文化	
4.	人口の推移	
5.	産業分類別事業所の状況	
第3章	これまでの取組と計画の方向性	8
1.	第1期・第2期における取組状況	
2.	計画の方向性	
第4章	計画推進に当たってのまちづくりの基本姿勢・要素	10
第5章	計画の目指すところと計画の概要	12
第6章	まちづくりの目標と取組	14
	[目標1]美しい自然のまちづくり	
	[目標2]歴史・文化・学問のまちづくり	
	[目標3]ひとにやさしいぬくもりのまちづくり	
第7章	地域別の現状と課題，方向性	26
	左京北部山間地域の現状と課題，方向性	29

第1章 はじめに

1. 計画の位置づけ



2. 計画の特徴

- 新たな課題や社会情勢の変化を踏まえて、整理・修正した計画
- 幅広い方々のご意見を反映した計画
- 左京区まちづくりの指針・拠り所となる計画
- 区誕生100周年(2029年)に向けて、新たなまちづくりのステップとなる計画

第2章 左京区の概況

1. 左京区の誕生

左京区は、昭和4（1929）年に上京区から分区し、誕生しました。その後、昭和6（1931）年に愛宕（おたぎ）郡修学院村、松ヶ崎村を、昭和24（1949）年に愛宕郡岩倉村、八瀬村、大原村、静市野村、鞍馬村、花脊村、久多村を、さらに、昭和32（1957）年に北桑田郡京北町広河原地区を編入し、現在に至っています。平成31（2019）年4月1日には誕生90周年を迎えました。

2. 地勢・自然環境

左京区は、京都市の東北部に位置し、北は京都市の最北端で、南丹市や高島市に続き、東は大津市に、西は北区、上京区、中京区及び右京区に、そして南は東山区と山科区に接し、区域の面積は、大阪市より広く、246.88 km²に及びます。また、区域は、大阪湾に注ぐ高野川・鴨川水系、桂川水系、琵琶湖に流れる安曇川水系の3つの水系の流域に大きく分かれ、地理的な特色からは、市街地を中心とする南部、市街地と自然が共存する中部、純農山村的な北部の3つに大別できます。

京都府下で最も高い皆子山（^{みなこやま}972m）、第2位の峰床山（^{みねとこやま}970m）を区域に含むなど、面積の約8割を山林が占め、峰床山の東には関西では珍しい高層湿原である八丁平（^{はっちょうだい}）があります。自然豊かな花脊以北地域は、平成28年（2016）年3月に指定を受けた「京都丹波高原国定公園」に含まれています。なかでも「八丁平」は、第1種特別地域（現在の景観を極力維持する必要のある地域）に指定されています。また、平成29（2017）年には、大悲山峰定寺の御神木である花脊の三本杉のうち一本が樹高62.3mで、高さ日本一の樹木であることが判明しました。こうした山林は、京都や大阪の水源の役割を担い、多種多様な動植物のかけがえのないすみかとなっています。また、中南部地域にも^{ただす}糺の森、吉田山などの豊かな自然が残されています。北部地域には、山村都市交流の森、野外活動施設花背山の家、百井青少年村などの施設があり、豊かな自然環境を生かしながら交流を進める拠点となっています。

3. 歴史・文化

左京区北白川では平成3（1991）年に縄文時代早期の竪穴住居跡が府内で初めて発見されるとともに、平成22（2010）年に京都市動物園内で行われた法勝寺（平安時代後期に白河天皇が造営）の発掘調査では、高さ約80mの巨大な八角九重塔の跡が見つかりました。また、室町時代後期、慈照寺（銀閣寺）を中心に花開いた東山文化から、いけ花や茶道などの文化が生まれたと言われています。このように、左京区は豊かな歴史と多彩な文化を有する区です。

また、区内には、世界遺産に登録されている賀茂御祖神社（下鴨神社）と慈照寺（銀閣寺）をはじめとして、南禅寺、平安神宮、鞍馬寺、三千院など著名な社寺が点在し、国宝や重要文化財が多く残っています。伝統行事では、国の重要無形文化財である久多花笠踊をはじめ、市の無形民俗文化財に登録されている大文字・妙法の送り火、花脊・広河原・久多宮の町の松上げ、八瀬赦免地踊、鞍馬の火祭などが各地域で継承されています。

さらに、京都市内行政区の中でも最も大学が多く、京都大学、京都工芸繊維大学、京都精華大学、京都芸術大学（旧名称 京都造形芸術大学）、京都ノートルダム女子大学、京都府立大学の6つの大学（大学院のみの大学を除く）があります。岡崎公園周辺には、京都市京セラ美術館（京都市美術館）、京都市動物園、ロームシアター京都（京都会館）、みやこめっせ（京都市勧業館）、琵琶湖疏水記念館、京都府立図書館、京都国立近代美術館などの文化施設が集積しています。地下鉄北山駅周辺には、京都コンサートホール、京都府立植物園、京都府立京都学・歴史館などがあります。

また、令和元年9月に開館した「宝が池左京体育館」を含む「宝が池公園運動施設」、「左京地域体育館」、「京都市武道センター」や「京都市障害者スポーツセンター」などのスポーツ施設も充実しています。

大学の集まるまちとして留学生も多く、数多くの外国人観光客も訪れます。宝が池の国立京都国際会館では、地球温暖化防止京都会議（COP3）をはじめ、数多くの国際会議が開催されてきたほか、国際交流や多文化共生の拠点となっている京都市国際交流会館には、年間約28万人（令和元年度）の来館者があるなど、国際色豊かな区でもあります。

4. 人口の推移

左京区には、令和元（2019）年10月時点で、167,822人、85,720世帯が暮らしており、京都市の中で3番目に人口の多い行政区です（図1-1）。年齢3区分別人口について、左京区の「65歳以上人口」の割合は約28%であり、超高齢社会（老年人口21%以上）の特徴を表しています（図1-2）。その中で、100歳以上人口は152人で、全行政区の中で2番目に多い状況です（図1-3）。また、外国籍市民は7,097人で、全行政区の中で2番目に多く、多様な方による人口構成となっています（図1-4）。

人口 ^{注1}	人口密度 ^{注1}	100歳以上人口 ^{注1}	外国籍市民 ^{注2}	世帯数 ^{注1}
167,822人	約680人/km ²	152人	7,097人	85,720世帯

（推計人口）

注1) 令和元年10月1日現在 注2) 平成30年10月1日現在

図1-1 左京区の人口



図1-2 左京区の年齢3区分別人口



図1-3 100歳以上人口（区別）

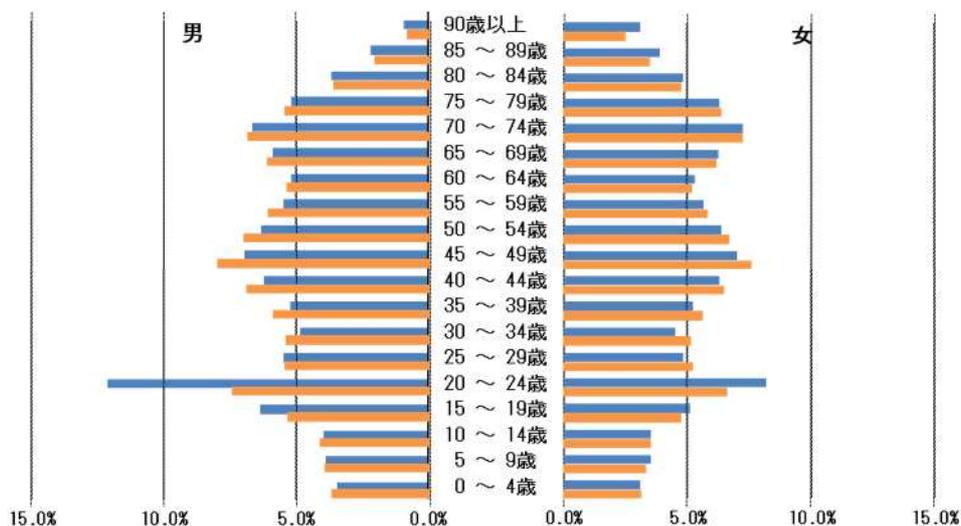


図1-4 外国籍市民（区別）



人口ピラミッドを見ると、令和元（2019）年10月時点では男女ともに「20～24歳」層が最も多く、「大学のまち・学生のまち」の特性を表しています。また、市全体と同様、「団塊の世代」である「70～74歳」とそのジュニア世代である「45～49歳」層の人口が多い状況となっています（図2）。

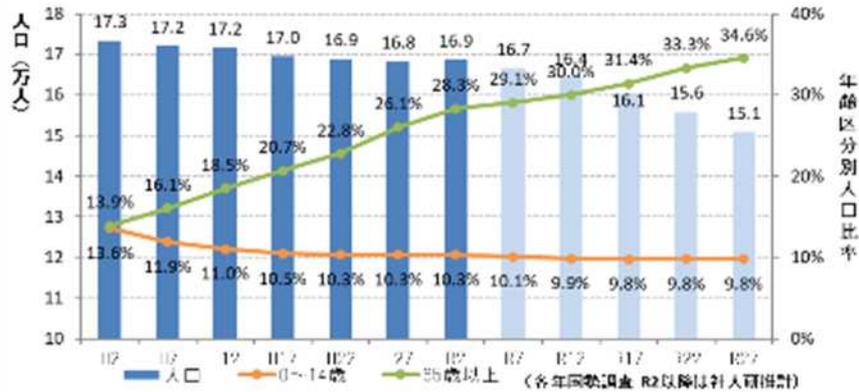
図2 年齢階層別



（令和元年10月1日現在、推計人）

人口及び将来推計人口では、平成 2（1990）年以降、老年人口比率（65 歳以上人口比率）が増加し、一方「0～14 歳」の年少人口比率が減少しており、今後も同様に推移していくことが予想されます（図 3）。

図 3 人口及び年齢区分別人口比率の推移



世帯構成では、左京区の単独世帯の割合は約 50%となっており、京都市平均（約 45%）より多くなっています（図 4-1）。その中でも、「15 歳～29 歳単独世帯」は約 41%を占めており、一人暮らしの大学生の割合が高いと推測されます（図 4-2）。

図 4-1 世帯型別世帯割合

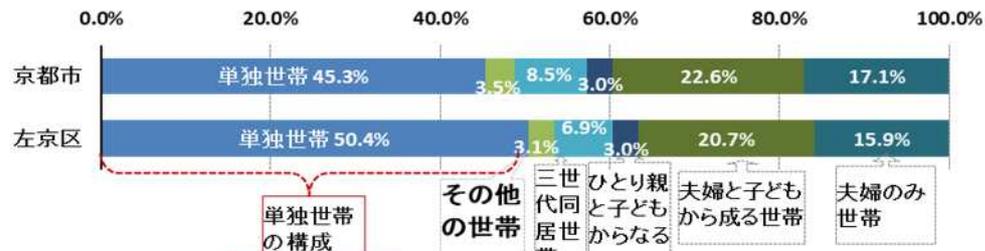
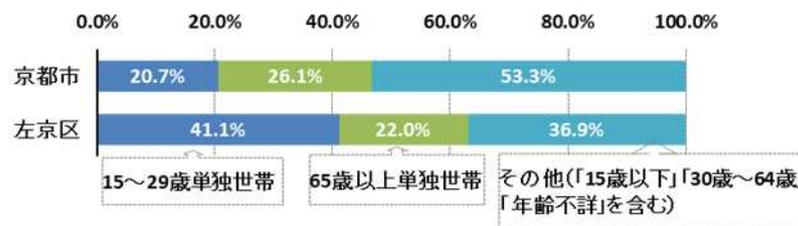
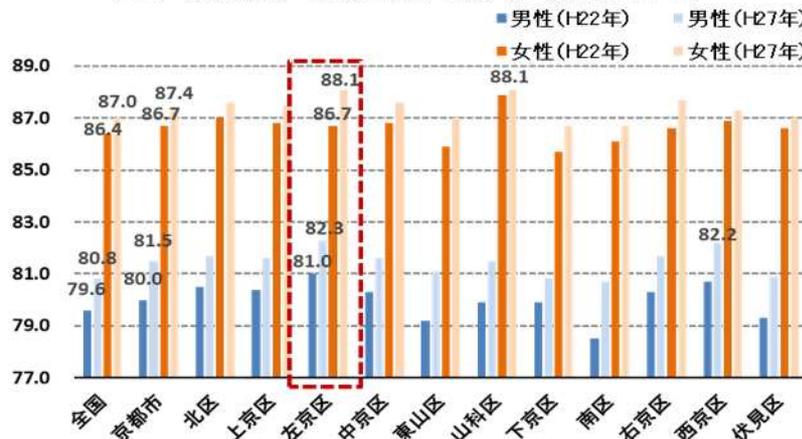


図 4-2 単独世帯の構成



平均寿命は、左京区では平成 22 年に比べて平成 27 年では男性が 1.3 歳、女性が 1.4 歳それぞれ延びています。左京区は、男女ともに全行政区の中で平均寿命が最も長く、全国平均値を上回っています（図 5）。

図 5 男女別、行政区別平均寿命（H22, H27 年）



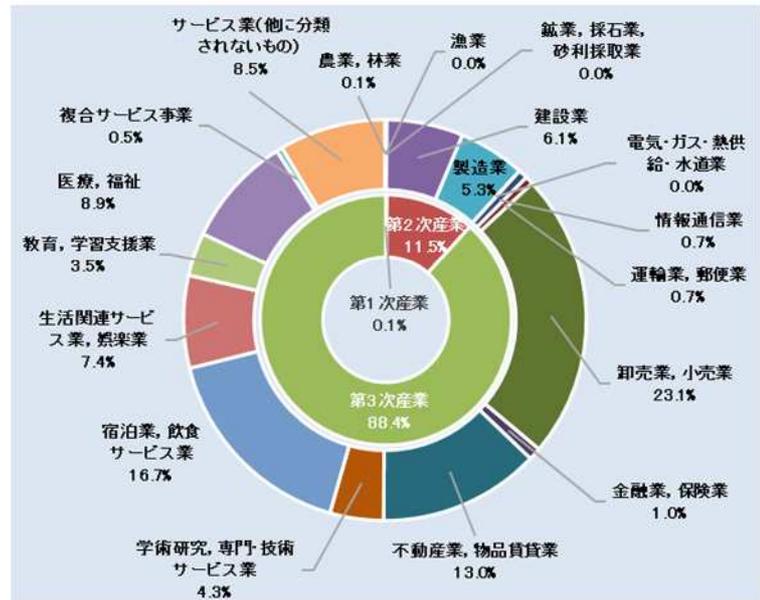
5. 産業分類別事業所の状況

産業分類別の民営事業所数では、左京区の第3次産業の割合は88.4%となっており、京都市全体の第3次産業の割合（83.2%）より高くなっています（図6-1、図6-2）。

図6-1 産業分類別民営事業所数構成比（京都市）



図6-2 産業分類別民営事業所数構成比（左京区）



産業分類別の従業者数では、左京区の第3次産業の割合は92.8%となっており、京都市全体の第3次産業の割合（83.8%）より高くなっています。その中でも、「教育・学習支援業」が15,164人（21.8%）と最も多く、次いで「医療・福祉」が14,204人（20.4%）となっており、6つの大学が集積している「大学のまち」としての特性や、医療機関や社会福祉事業所など社会資源の多さを反映しています（図6-3、図6-4、図7）。

図6-3 産業分類別従業者数構成比（京都市）

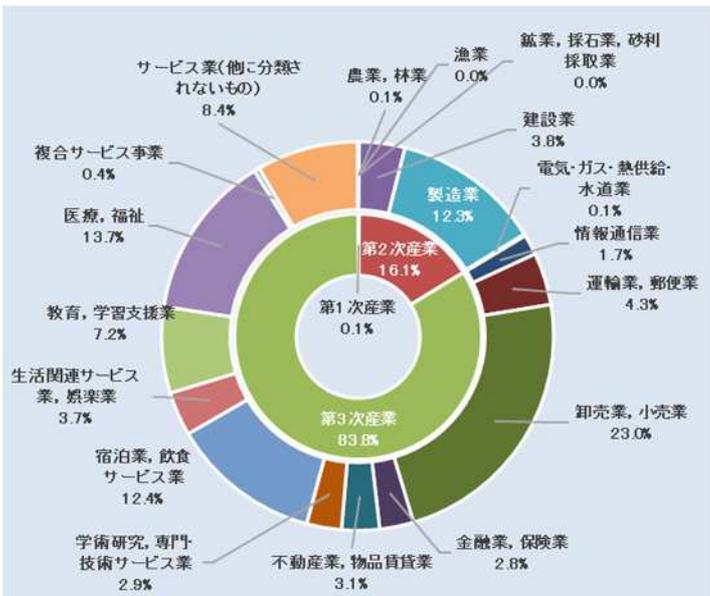


図6-4 産業分類別従業者数構成比（左京区）

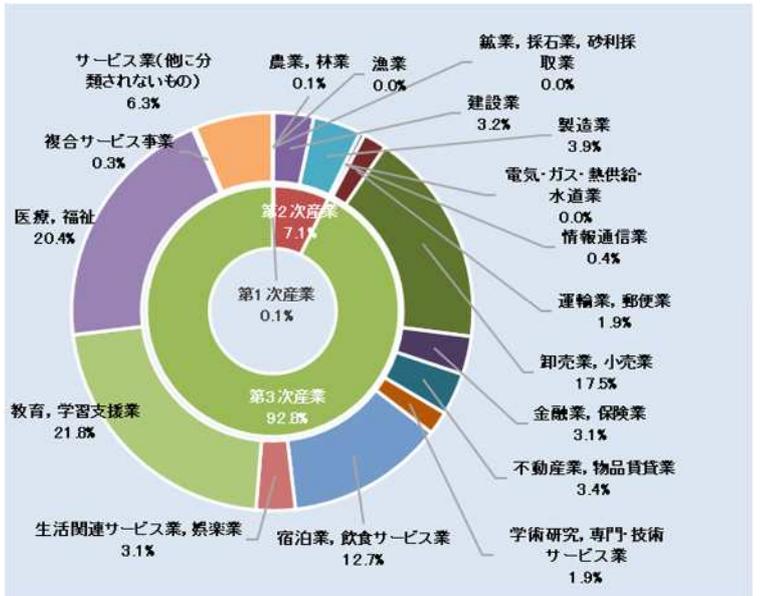
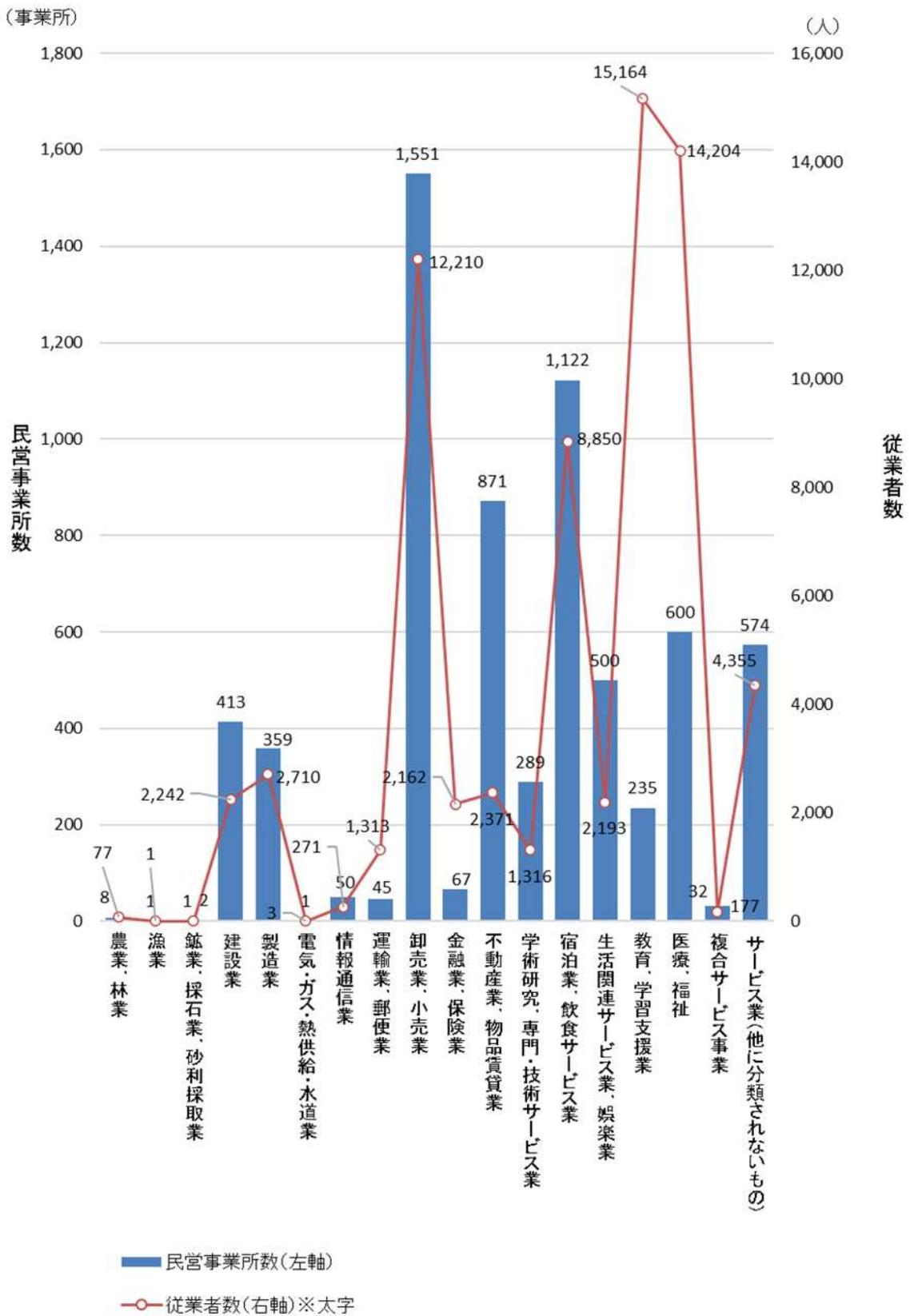


図7 産業大分類別民営事業所及び従業者数（左京区）



第3章 これまでの取組と計画の方向性

1. 第1期・第2期における取組状況

第1期における取組状況 (2001～2010年)

第2期における取組状況 (2011～2020年)

*第1期から継続する取組は記載を省略

歴史

- ・ 伝統行事を収録した観光振興用 DVD の作成
- ・ 伝統行事の保存会等のネットワークづくり
- ・ 「知られざる歴史的文化遺産の再発掘とまちづくり資源としての整備」をテーマにしたシンポジウムや講演会の開催
- ・ 散策マップや歳時記マップの作成

文化

- ・ 煎茶会, いけ花教室, 文化フェスティバル, 作品展を開催
- ・ 区民による身近な文化の更なる創造

学問

- ・ 大学と地域の相互交流促進事業を活用した, 大学と地域の協働による魅力あるまちづくり
- ・ 大学等の研究者による区民講座を開催

区民が出会い、ふれあう場

- ・ 左京区民ふれあいまつりをはじめとする区民ふれあい事業
- ・ 人権啓発事業
- ・ 心ときめき芸術祭の実施
- ・ 誰もが互いの人権を尊重するまちづくり
- ・ 新左京区総合庁舎の整備

目標1 美しい自然のまちづくり

- ・ チマキザサ再生プロジェクトの推進
- ・ 「農」を活かした北部山間地域魅力創造プロジェクトの推進
- ・ 北部山間各地域における夏・秋祭りの実施
- ・ 学生向け自転車啓発「今出川通作戦」の実施等, 自転車の安全利用の啓発
- ・ ニノ瀬トンネルの完成・開通
- ・ 各地域における防災訓練の実施や避難行動マニュアルの作成

目標2 歴史・文化・学問のまちづくり

- ・ 左京・地域ゆかりの文化発信・継承プロジェクトの推進
- ・ 「左京・食と伝統の文化フェスタ」の開催
- ・ 岡崎地域活性化推進事業の実施
- ・ 京都市動物園, 京都会館, 京都市美術館, 京都府資料館のリニューアル
- ・ 「左京×学生縁ねっと」の実施
- ・ 京都府立大学との共同研究による伝統文化の保存・継承のための調査の実施
- ・ 京都精華大学との包括連携協定の締結

目標3 ひとにやさしいぬくもりのまちづくり

- ・ 「左京 ほっこりベビーフェスタ」等, 0歳児とその親を対象とした相談事業や交流の場づくり
- ・ 「左京・からだの学校」による高齢者の健康づくりと仲間づくり
- ・ 認知症の方やその家族を対象とした居場所づくり
- ・ 区役所での授産施設の自主製品の販売コーナーの設置
- ・ 4箇国語による左京区防犯・防火ハンドブックの作成や地域の見守り活動への支援
- ・ 「みんなでつくる左京朝カフェ」の開催
- ・ 「左京まちづくり交流会」の開催
- ・ まちづくり活動支援交付事業の実施

2. 計画の方向性

<第2期>2011~2020

左京はあとふるプラン

<計画の目指すところ>

自然を愛で、歴史を学び、文化を楽しむ「豊かなこころ」を大切に伝えます

- 目標1 美しい自然のまちづくり
- 目標2 歴史・文化・学問のまちづくり
- 目標3 ひとにやさしいぬくもりのまちづくり

地域別の目標

15の取組分野

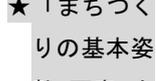
各分野において取組を推進

★「目標1~3」を継承



横断的課題

★「まちづくりの基本姿勢・要素」を新たに設定



★「取組分野」を整理・修正

(新たな課題、社会情勢等を踏まえて)

各分野

個別的課題

○今後の課題

<これまでからの課題>

<新たな課題>(社会情勢の変化等)

- ・SDGsへの対応
- ・社会的孤立の顕在化
- ・人口減少、少子化、高齢化による担い手不足
- ・価値観・ニーズの多様化
- ・外国籍市民等の増加
- ・新型コロナウイルス等感染症や自然災害の脅威 等

<第3期>2021~2025

左京区基本計画(第3期)

<計画の目指すところ>

左京の自然や文化を大切に、誰一人取り残さないまちづくりを進めます

まちづくりの基本姿勢・要素

「誰一人取り残さない」

SDGsの理念を踏まえたまちづくりの推進

- ① つながり
住民同士や地域間、各団体間、事業者間等における「交流・つながり」の促進
- ② 協働
区民・事業者や様々な団体・機関による参加・連携・協働によるまちづくりの推進
- ③ 共生
多様性を互いに尊重しながら共に生きるまちの推進
- ④ なりわい
産業振興・しごと創造による地域活性化、生活基盤の安定と定住化の促進、地域内経済循環の促進
- ⑤ 左京愛
「左京ファン」の拡大とまちの「担い手・支え手」となる人材の育成

- 目標1 美しい自然のまちづくり
- 目標2 歴史・文化・学問のまちづくり
- 目標3 ひとにやさしいぬくもりのまちづくり

地域別の目標

12の取組分野

各分野において取組を推進

各分野横断的に取組を推進

《区誕生100周年、さらにその先の未来に向けて》

持続的に発展するまちづくりのサイクルを確立

推進体制の充実

※SDGs(持続可能な開発目標):平成27(2015)年の国連サミットで採択された、令和12(2030)年までを期間とする国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットを定めたもの。

第4章 計画推進に当たってのまちづくりの基本姿勢・要素

左京区基本計画（第3期）においては、計画の推進に当たり、前計画期間中に顕在化した新たな課題や社会情勢の変化（SDGsへの対応、社会的孤立の顕在化、人口減少・少子化、高齢化による担い手不足、価値観・ニーズの多様化、外国籍市民等の増加、新型コロナウイルス等感染症や自然災害の脅威等）を踏まえて、新たに、必要となる基本的な姿勢や、促進すべきまちづくりの基盤的要素（「まちづくりの基本姿勢・要素」）を以下のとおり設定します。

- 国連において掲げられた国際目標であるSDGsの「誰一人取り残さない」の理念、及びあらゆる危機にしなやかに対応し、より魅力的な都市となるレジリエンスの理念を踏まえながら持続可能なまちづくりを推進することを最上位の基本姿勢とします。
- SDGsの理念を踏まえ、IT化のより積極的な普及促進、働き方改革などこれまで達成できていなかった社会課題の解決を加速し、ウィズコロナ時代における新しい生活スタイルに対応した持続可能でより安心安全のまちづくりを構築する。
- そのうえで、これまで同様、各分野における個別的課題に即して取組を進めるとともに、（それだけでは解決できない）複数分野にわたる横断的・根底的な課題に対応して、取組の実施に当たって必要となる共通の基本姿勢や、課題解決を横断的に促進する基盤的要素として、「つながり」・「協働」・「共生」・「なりわい」・「左京愛」を位置付け、総合的に左京区のまちづくりを推進します。

「誰一人取り残さない」SDGsの理念を踏まえたまちづくりの推進

国連において、気候変動や自然災害、生物多様性等、国内外の課題の解決に向けて掲げられたSDGs（持続可能な開発目標）の「誰一人取り残さない」の理念や方向性、高齢者などのデジタル・ディバイド（情報格差）を解消する真のIT社会の実現、あらゆる危機に備えたレジリエント・シティの実現、ウィズコロナ時代における新しい生活スタイル等を踏まえながら、左京に暮らし、働き、学び、左京を愛するすべての人が、生涯を通じて生き生きと活躍できる、持続可能な安心安全の左京のまちづくりを推進する。

1. つながり

住民同士や地域間、各団体間、事業者間等における「交流・つながり」の促進

（*第2期取組分野15「交流」を拡大して位置付け）

住民同士や「地域間」、「世代間」、「各団体間」、「事業者間」、「これまで住んでいた住民と転居してきた住民」、「移住外国人・留学生と区民」、「観光客と区民」、「大学と地域」など様々な主体が、互いの情報を共有しながら交流とつながりを促進する。

<取組の具体例>

- | | |
|----------------|----------------------|
| ・左京区民ふれあいまつり | ・みんなでつくる左京朝カフェ事業 |
| ・オール左京まちづくり交流会 | ・SNSやオンラインのICTツールの活用 |

※外国籍市民等：外国籍の市民のほか、海外にルーツを持つ日本国籍の市民や帰国児童・生徒も広く含めた表現。

※レジリエンス：さまざまな危機からの回復力、復元力、強靱性（しなやかな強さ）を指す。

※レジリエント・シティ：自然災害や人口減少をはじめとする様々な危機に対し、粘り強くしなやかに対応し、将来にわたって人々がいきいきとくらす、魅力と活気に満ちた都市。

2. 協働

区民・事業者や様々な団体・機関による連携・参加・協働によるまちづくりの推進

(* 第 2 期取組分野 14 「市民参加」 を拡大して位置付け)

区民，地域団体，事業者，大学，NPO・活動団体，行政等が連携・参加・協働し，各主体の「強み」を生かして，社会課題の解決や左京の魅力発信等を行うまちづくりを推進する。

<取組の具体例>

- ・左京区まちづくり活動支援交付事業
- ・みんなごとのまちづくり推進事業
- ・世界一安心安全・おもてなしのまち京都市民ぐるみ推進運動

3. 共生

多様性を互いに尊重しながら共に生きるまちの推進

(* 第 2 期取組分野 15 「共生」 を拡大して位置付け)

多様な地域を有し，多くの学生や性的少数者，外国籍市民等，様々な文化や価値観を持った人々が暮らす左京区において，互いの文化や考え方等の違いを認め合い，尊重し合いながら，助け合い，支え合うまちづくりを進める。

<取組の具体例>

- ・心のふれあいみんなの広場
- ・心ときめき芸術祭

4. なりわい

産業振興・しごと創造による地域活性化，生活基盤の安定と定住化の促進，地域内経済循環の促進

新たな脅威が発生した場合でも，左京区内の地域に根差した事業者（地域企業等）・職人が地域資源を生かしながら活躍して産業が振興し，新たな仕事が創造されることにより，地域が活性化し，区民の生活基盤が安定して，だれもがいつまでも安心して住み続けられるまちづくりを推進する。

<取組の具体例>

- ・企業と連携した（ビジネス的手法による）地域活性化

5. 左京愛

「左京ファン」の拡大とまちの「担い手・支え手」となる人材の育成

単に左京区の魅力を一元的に発信するだけでなく，様々な人から引き出した，訪ねる魅力・住む魅力・働く魅力等をきめ細かく区内外へ発信し，広げていくことにより，国籍等に関わらず多様な区民のまちへの愛着・誇りを醸成する。まずは広く「左京ファン」を増やすことに重点を置く。その中から観光，移住や定住を促進させ，各地域の行事・取組の後継者や，まちづくりの「担い手・支え手」を育成していく。

<取組の具体例>

- ・左京区広報 PR キャラクター
- ・「左京×学生 縁ねっと」事業

第5章 計画の目指すところと計画の概要

令和2年初めから全世界各地で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の拡大により、我が国においても、特に、特別措置法に基づく緊急事態宣言（令和2年4月中旬～5月下旬）が全都道府県へ拡大されたことで、などが大打撃を受けた（この年、京都四大大行事について、三大祭の行列が中止、五山の送り火は縮小して実施）。以上のような、新型コロナウイルス感染症の拡大が社会へもたらした影響の大きさを踏まえ、左京区基本計画 手洗い・消毒、マスク着用などを示した新しい生活スタイルの浸透、地域活動のあり方の検討、行政手続き等の



区民一人ひとりができること*

目指すところ

左京の自然や文化を大切にし、誰一人取り残さないまちづくりを進めます

目標 1 **美しい自然のまちづくり**

緑あふれる美しい自然を守り育て、自然と調和するまちづくりを進めます。

5年後のすがた 美しい自然環境を活用し、持続可能な生活を実現している

- 1 自然環境
- 2 まちの美化・景観
- 3 自然と調和した都市基盤整備
- 4 防災・消防

『自然を愛でるころ』を大切にしましょう。

美しいまちを目指しましょう。

自然資源を暮らしの中で使いましょう。

自然災害等に対する防災意識を高めましょう。

目標 2 **歴史・文化・学問のまちづくり**

豊かな歴史と多彩な文化、多くの大学が集まる学問の魅力をもっと高めるまちづくりを進めます。

5年後のすがた 伝統を生かしつつ、新しい魅力を創造している

- 5 歴史資源・文化財・伝統行事
- 6 観光
- 7 文化・芸術
- 8 大学のまち・学びのまち

左京区の歴史や文化を学び、伝統行事を守り伝えましょう。

観光客に左京区の文化を伝えましょう。

文化・芸術を楽しみましょう。

地域と大学・学生との交流を図りましょう。

目標 3 **ひとにやさしいぬくもりのまちづくり**

全てのひとが支え合いながら、住み慣れた地域で暮らしていくことができる地域共生社会を実現するまちづくりを進めます。

5年後のすがた 誰もが人とのつながりや生きがい、役割を持ち、社会的に孤立することなく、いきいきと安心して過ごすことができる

- 9 子どもはぐくみ
- 10 健康長寿
- 11 障害者福祉
- 12 地域コミュニティ・安心安全

子どもや子育て家庭を地域全体で見守り、育てましょう。

楽しみながら生涯を通じて健康づくりに取り組みましょう。

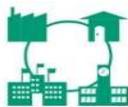
地域で福祉に取り組む意識を受け継ぎましょう。

互いを認め合い、交流を深め、地域活動への参加を呼びかけましょう。

社会経済生活に多大な影響が及び、社会システムの変革を余儀なくされた。

不要不急の外出の自粛が求められたほか、各地で行事がほとんど中止となり、文化、観光、産業また、学生生活や地域コミュニティの維持・活性化にも相当な影響が及んだ。

(第3期)では、同様の脅威が起きたときを想定し、ウィズコロナ時代に適応した3密対策や更なるICT化の推進などに取り組み、持続可能な安心安全のまちづくりを目指す。



区民と行政・事業者・大学等が協働すること



行政(区役所・市役所)がすること

自然を育み、生かして、次代に継承しましょう。

地域での一斉清掃などの取組を行いましょう。

まちの緑や景観を守りましょう。

長期的な視点で力を合わせて防災に取り組みましょう。

小学校等との連携により、歴史や文化を学ぶ仕組みをつくりましょう。

自然を生かした観光の仕組みづくりを進めましょう。

文化・芸術の創造と発信に取り組みましょう。

大学の発想を生かしたまちづくりを進めましょう。

子どもや子育て家庭の安心・安全を確保しましょう。

地域で顔の見える関係づくりを進めましょう。

地域でいきいきとすこやかに暮らせるよう交流しましょう。

地域の団体との連携により、地域活動の輪を広げましょう。

広域的・長期的視点で自然を生かした取組を進めます。

環境保全に関する啓発を強化し、景観に配慮した整備を進めます。

自然に配慮した都市基盤整備を進めます。

災害に強いまちづくりを進めます。

文化財・伝統行事の保存・継承や活用を進めます。

地域の魅力を生かした観光を支援します。

文化・芸術を身近に感じられる環境づくりと、文化・芸術の活用に取り組みます。

大学・学生と地域・行政等が連携できる仕組みづくりを進めます。

妊娠前から育児期、青年期に至るまで、切れ目のない支援を推進します。

健康づくりの機運を高め、区民が主役の「健康長寿のまち・左京」を目指します。

地域のネットワークづくりを推進します。

地域間の交流と情報の共有を支援します。

第6章 まちづくりの目標と取組

[目標1] 美しい自然のまちづくり

1 自然環境

【現状（魅力）】

- 左京区は、美しく豊かな自然に恵まれた山紫水明の地であり、美しい山々と清らかな水の流れをはじめとする自然は、多くの区民が左京区の魅力として挙げている（区民アンケート（平成30年））。
- 豊かな自然環境を生かし、伝統的な食文化を彩る京野菜が栽培されている。

【課題】

- 高齢化や人口減少により、農林業に携わる人が減少し、生業としての農業や、山林の維持管理が困難な地域が増えている。
- 昨今の台風・風雨による倒木・土砂災害により、自然環境への「脅威」や「負担」の意識が増加している。
- シカの食害やサルの出没等、野生鳥獣による農林被害や生活環境への影響が生じている。

【今後の方向性】

- 自然環境の価値を再認識し、山間地や里山が都市の中で担ってきた役割や築いてきた文化を理解していく。
- 今後も農地を維持しながら地元の食材を使う食文化を広めるなど、豊かな自然を生かした農業を守り伝えていくことで、農林業の振興を図る。
- 自然環境をキーワードに北部地域と中南部地域の交流を進め、水や木などの資源を円滑に地域間で循環させていく。
- 深刻な被害をもたらす台風等の発生に影響を与えている気候変動問題に向き合い、脱炭素の取組などを通じて、持続可能な社会づくりに向けた取組を暮らしに取り入れていく。
- 様々な生物が共存する「生物多様性」を保全していく。

区民の 取組	<u>『自然を愛でるころ』を大切にしましょう。</u> ・自然を大切にし、「自然を愛でるころ」を次の世代へと受け継ぎましょう。 ・美しい自然を守るため、エコライフ（地球環境に配慮した優しい生活）を実践しましょう。 ・北部山間地や里山について学び、訪れて、その魅力を体感しましょう。
協働の 取組	<u>自然を育み、生かして、次代に継承しましょう。</u> ・山林の維持管理や休耕田等の活用を進めるなど、自然の資源を生かしましょう。 ・自然と環境の価値や山間地・里山の役割を広く普及し、次世代に伝える取組を進めましょう。
行政の 取組	<u>広域的・長期的視点で自然を生かした取組を進めます。</u> ・農林業の振興を図り、産業や生活基盤としての魅力を高めるとともに、鳥獣被害や病虫害の対策を進めます。 ・豊かな自然を生かし、北部地域と中南部地域の交流を進め、左京区の自然の魅力を発信します。

2 まちの美化・景観

【現状（魅力）】

- 左京区には市街地の中にも街路樹や社寺、公園の木々などの緑が豊かにあり、四季の移り変わりを感ずることができる。
- 地域内の一斉清掃など、区民の自主的なまちの美化活動の取組が各学区で進められている。
- 多くの地域が、特に飲料容器や吸い殻等の散乱を防止する必要がある美化推進強化区域として指定されている。
- 清らかな水に恵まれ、釣り人等で川が賑わう季節があるなど、美しい山や川が存在している。

【課題】

- 学生や外国籍市民等の多い地域では、多言語によるゴミ出しルールの周知を進める必要がある。
- 観光客が多く訪れていた地域では、しばしばごみが散乱し、地域で清掃しなければならない状況にあったため、観光客のまちの美化に対する意識を高める必要がある。

【今後の方向性】

- ごみを出すルールの徹底や、門掃きや打ち水などに取り組むことで、皆で力を合わせて美しいまちを守る。
- 地域の一斉清掃に引き続き取り組み、まちや山、川を美しくしていく。
- 区民や観光客がまちの美化やごみの減量に取り組んでいけるよう意識の醸成を図っていく。

区民の取組	<u>美しいまちを目指しましょう。</u> ・門掃きや打ち水など、まちを美しくすることを心がけましょう。 ・ごみを出すルールを守り、環境意識を高めてごみを減らしましょう。
協働の取組	<u>地域での一斉清掃などの取組を行いましょう。</u> ・地域内の一斉清掃を行うなど、まちや山、川を美しくしましょう。 ・ごみの出し方のルールを徹底し、不法投棄をなくしましょう。
行政の取組	<u>環境保全に関する啓発を強化し、景観に配慮した整備を進めます。</u> ・区民や観光客へのまちの美化やごみの減量、環境保全に関する広報を充実させます。 ・無電柱化など景観に配慮したまちづくりを進めます。

3 自然と調和した都市基盤整備

【現状（魅力）】

- 北部地域には豊かな自然やそれと結びついた文化のある暮らしが営まれている。
- 「花背リゾート 山村都市交流の森」などの交流施設が整備され、北部地域と中南部地域の交流が進められている。
- 街路樹や公園の木など、身近に緑が多く整備されている。

【課題】

- 北部地域では、人口の減少が大きな課題となっており、集落としての機能を維持することが限界に近づきつつある集落も生じている。
- 大原や鞍馬、静原等の市街化調整区域や花脊峠以北の都市計画区域外では、自然環境の保全と地域の活性化との調和が課題である。
- 中南部地域の子どもが自然と触れ合う機会が少なくなっている。
- 高齢化や人口減少の進行等により、空き家が増えている。

【今後の方向性】

- 左京区ならではの豊かな自然との調和を図りつつ、道路改良など交通手段の確保と都市基盤の整備を進めることで、北部地域に来てもらい、暮らしてもらう人を増やしていく。
- 市街化調整区域や都市計画区域外等の各地域で定住できる、活力ある里づくりを進める。
- 北部地域と中南部地域の交流を更に進めていく。
- 地域の将来像を踏まえた空き家の活用方法等を検討する。

区民の 取組	<u>自然資源を暮らしの中で使いましょう。</u> ・左京区の自然に親しみ、資源を日々の生活や仕事の中に使っていきましょう。 ・自然や資源を生かして地域間の交流や連携を深めましょう。
協働の 取組	<u>まちの緑や景観を守りましょう。</u> ・緑を豊かにし、自然と調和した美しい景観を守りましょう。 ・若い世代が移り住めるよう、自然を守りながら北部地域の活性化を進めましょう。
行政の 取組	<u>自然に配慮した都市基盤整備を進めます。</u> ・北部地域の活性化や中南部地域との交流を促進するため、道路網の整備推進など、美しい自然に配慮しながら都市基盤整備を進めます。 ・まちの緑である都市公園等の再整備を進めます。

4 防災・消防

【現状（魅力）】

- 各地域においては、自主防災組織により防災活動が実施されている。
- 平成30年9月の台風21号では、特に北部山間地域において、道路の通行止め、停電や通信障害の長期化により、生活に大きな支障が生じたが、困難に立ち向かう地域住民の団結力が発揮された。
- 毎年度左京区社会福祉協議会を中心に、地域団体、ボランティアグループ、障害者団体等が参加し、災害ボランティアセンターの円滑かつ効果的な運営のための研修会が開催されている。

【課題】

- 避難行動に関する住民意識の向上に取り組むとともに、行政と住民が協力して避難所での感染症対策を進める必要がある。
- 住民同士のつながりが弱まったり、独居の高齢者や日本語が通じない外国人が増えるなど、地域防災を取り巻く環境に大きな変化が生じている。
- 各地域において、避難所運営の訓練の実施やペットの受入れ体制の整備が十分には進んでいない。

【今後の方向性】

- 水や食料の備蓄、避難行動に関する知識向上、避難所での咳エチケット・手洗い・3密（密閉・密集・密接）の回避等、自主防災組織等と連携して、様々な機会を通じて住民に周知していく。
- 土地所有者、区民、行政及び関係団体が連携し、適切な森林保全、民家隣接の傾斜木の撤去等、自然災害による被害軽減に取り組む。
- 地域や関係機関と連携して、独居の高齢者、他府県からの学生や留学生、外国人及び障害のあるひとへの避難誘導等の支援の在り方など、住民の特性や地域の実情に即した防災対策を検討する。
- 行政各部署や関係団体が連携し、高齢者、障害のあるひと、妊産婦等、一般の避難所での避難生活が困難な方が、福祉避難所での避難生活へ円滑に移行できるよう、協議・訓練に取り組む。
- 地域や施設管理者、関係団体と連携して、学区ごとに避難所運営に係る課題を共有し、避難所運営訓練の実施と、飼主とペットの受入れができる避難所の受入れ体制の強化を進める。

区民の取組	<p><u>自然災害等に対する防災意識を高めましょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害や火災の被害を最小限にするため、日常的に地域全体の安全を一人ひとりが考え、防災訓練に積極的に参加しましょう。 ・避難生活に備え、最低3日分の水や食料、薬、マスク、体温計、消毒液等を準備し、避難の際には持参しましょう。 ・災害時にご近所や地域の人と助け合える関係を日頃から築きましょう。
協働の取組	<p><u>長期的な視点で力を合わせて防災に取り組みましょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と行政、関係団体等が力を合わせ、防災や地域の安全について、長期的な視点に立って取組を進めましょう。 ・咳エチケットや手洗い、3密回避など、避難所での感染症対策を日頃から住民に周知し、地域ぐるみで取り組みましょう。 ・自主防災組織や地域住民が連携して課題に取り組み、地域の防災力を高めましょう。
行政の取組	<p><u>災害に強いまちづくりを進めます。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民と行政、関係団体との連携を強化し、行政や地域の防災訓練等の場も活用して、区民の防災意識や避難行動の向上に取り組めます。 ・避難所へ感染防止対策物品を配備し、住民に感染症対策の情報を周知し、避難所での感染症対策に取り組めます。 ・災害に強い道路や橋等の整備、適切な森林管理、倒木や危険木の対策等を進めます。 ・土木・保健・福祉・医療・ボランティア等、各方面における行政機関や関係団体と連携・協力し合い、避難所運営や被災者支援の一層の向上に取り組めます。

[目標2] 歴史・文化・学問のまちづくり

5 歴史資源・文化財・伝統行事

【現状（魅力）】

- 左京区は、区内の至るところに、悠久の歴史や文化が息づいている。
- 世界遺産である賀茂御祖神社（下鴨神社）と慈照寺（銀閣寺）をはじめとして、著名な社寺など我が国有数の文化財が点在している。
- 区内各地域には、昔ながらの形で保存・継承されてきた伝統行事が数多くあり、国の重要無形民俗文化財である久多花笠踊をはじめ、京都市登録無形民俗文化財の約半数を占める24件が区内に集中している。
- 京都東山の麓、白川の扇状地に位置する岡崎は、その自然、文化、歴史的特性から、平成27（2015）年に「京都岡崎の文化的景観」として国指定の重要文化的景観に選定されている。

【課題】

- 人口減少と少子化、高齢化により、伝統行事を支えている保存会では、行事を受け継ぐ次世代の育成や技術の継承が課題となっている。
- 自然環境の変化や農林業従事者の減少により、文化財や伝統行事の材料となる自然資源の供給が困難になっている。

【今後の方向性】

- 左京の宝である歴史資源・文化財・伝統行事を今後も継承していくため、子どもたちが、これらの歴史・文化を日々の暮らしや学校等と地域の連携の中で学んでいくとともに、地域の行事に参加できるような仕組みづくりに取り組む。
- 祈りと信仰に由来する伝統行事の本来の意義について考える機会を設ける。
- 新しい住民の方に伝統行事への参加を呼びかけていく。
- 左京の豊かな伝統と歴史を区内外の方に支えていただけるよう、魅力を発信していく。

区民の取組	<p><u>左京区の歴史や文化を学び、伝統行事を守り伝えましょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな伝統と歴史を誇る左京区の魅力を学び、次世代へと継承していきましょう。 ・自然と歴史が融合した文化の良さや日常的な文化的景観を再認識し、守っていきましょう。 ・若い世代や子どもに伝統行事を伝えるとともに、行事に参加できる仕組みをつくり、参加を呼びかけましょう。
協働の取組	<p><u>学校等との連携により、歴史や文化を学ぶ仕組みをつくりましょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や文化、伝統行事、古くから伝承されてきた生活習慣について、地域と学校、大学等の連携により、区民や子どもたちが気軽に学ぶことのできる仕組みづくりを進めましょう。 ・伝統行事の保存・継承の課題解決に向けた取組を進めましょう。
行政の取組	<p><u>文化財・伝統行事の保存・継承や活用を進めます。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴重な文化財の調査を行い、保存・活用を進めます。 ・歴史や文化についての情報を発信し、魅力を伝えます。 ・伝統行事を担う人のネットワークにより、地域間の交流や必要な資材等に関する情報交換を支援します。 ・伝統行事の継承に向け課題等の広報を展開します。

6 観光

【現状（魅力）】

- 左京区には、豊かな自然、美しい景観、歴史ある神社仏閣など、誇るべき観光資源が数多くある。
- 慈照寺（銀閣寺）、南禅寺、鞍馬・貴船、平安神宮、大原などは、市内でも有数の観光地で、多数の観光客が訪れている。
- 近年は久多や別所の農家民宿に国内や外国から泊まりに来るようになってきている。
- 多くの人が国内外から左京区に来て、自然や文化などを体験している。

【課題】

- 近年観光客の来訪に伴い、地域によっては民泊の増加やゴミ捨てのマナー等、区民から生活環境や交通環境の悪化を懸念する声が出ている。
- 区内の多様な魅力に触れてもらうため、各地域に広く点在している観光資源を生かし、観光客の分散化を図ることが求められている。

【今後の方向性】

- これからも観光客を温かくもてなしながらもしっかりとマナー・ルールを周知するなど、地域住民の暮らしと十分に調和を図りながら観光を推進していく。
- 各地域ならではの文化や豊かな自然を生かした観光の仕組みづくりを進め、多様な魅力を発信していく。

区民の 取組	<u>観光客に左京区の文化を伝えましょう。</u> ・左京区の文化を理解し、地域の文化を発信しましょう。 ・国内外からの観光客をおもてなしの心で温かく迎えましょう。
協働の 取組	<u>自然を生かした観光の仕組みづくりを進めましょう。</u> ・農林業や食文化の体験、風景観賞など、自然を生かした観光の仕組みづくりを進めましょう。
行政の 取組	<u>地域の魅力を生かした観光を支援します。</u> ・ごみのポイ捨て等の観光客のマナー違反の発生を防ぐとともに、自然や文化をゆつくり味わうことのできる観光を目指し、地域の魅力づくりを支援します。

7 文化・芸術

【現状（魅力）】

- 左京区には、北山や岡崎をはじめとする文化施設の集積した地域があり、近年リニューアルされた京都市京セラ美術館、京都市動物園、ロームシアター京都、京都府立京都学・歴史館のほか、2020年に開館 25 周年を迎えた京都コンサートホールや、国内に6つある国立美術館の一つである京都国立近代美術館、国の名勝に指定されている無鄰菴などがある。
- 各地域で文化・芸術の伝統や蓄積が受け継がれてきている。
- 左京区の文化・芸術は、季節感を重んじることで暮らしの中に溶け込み、区民はそれらの文化・芸術を楽しんでいる。とりわけ、自然と結びついた文化や食の文化は、左京区の暮らしの中で育まれた文化である。

【課題】

- 文化施設のリニューアルを受けて、区民が文化・芸術を鑑賞・参加・創造する機会をより一層増やすなど、文化・芸術を通じた地域コミュニティの維持、活性化を図る必要がある。
- 価値観や生活様式などの変化に伴い、地域に根差し、暮らしの中に息づいてきた文化を未来へと受け継いでいくことが難しくなっている。

【今後の方向性】

- 左京区の恵まれた文化・芸術を楽しむところを多くの区民が受け継いでいくために、区民が魅力を感じて文化・芸術に触れるような仕組みをつくる。
- 自然と歴史を生かした、左京区ならではの新しい文化・芸術の創造と発信に取り組む。
- 各地域で受け継がれてきた伝統的な文化・芸術を観光やまちづくりなど様々な分野に活用し、文化・芸術による区内の新たな価値の創造に取り組む。

区民の取組	<u>文化・芸術を楽しみましょう。</u> ・区内にある文化・芸術の施設を訪ね、地域ゆかりの文化や、新しい芸術を楽しみましょう。 ・暮らしの中に息づいている文化を新しい視点で受け継いでいきましょう。
協働の取組	<u>文化・芸術の創造と発信に取り組みましょう。</u> ・大学・文化施設等が協働し、文化・芸術の創造を目指し活動する区民を支援する場や機会の提供に取り組みましょう。 ・区民が左京の文化・芸術を学ぶことのできる機会をつくりましょう。
行政の取組	<u>文化・芸術を身近に感じられる環境づくりと、文化・芸術の活用に取り組めます。</u> ・区民が食文化やお茶、いけ花等、左京の自然や歴史と結びついた文化・芸術に気軽に触れることができる環境づくりに取り組めます。 ・文化・芸術の創造に対する支援に取り組むとともに、教育や観光、まちづくり等に生かします。 ・岡崎地域の活性化や北山エリアの整備を左京のまちづくりに生かします。

8 大学のまち・学びのまち

【現状（魅力）】

- 左京区には、京都大学、京都工芸繊維大学、京都精華大学、京都芸術大学（旧名称 京都造形芸術大学）、京都ノートルダム女子大学、京都府立大学の6つの大学（大学院のみの大学を除く）が集積していることから、若者が多いことに加えて、外国からの研究者や留学生も多数暮らしている。
- 「大学のまち・左京」として、大学と地域の連携を積極的に行っている。
- 地域に入って熱心な活動を展開する大学の教員や学生も多く、大学と地域の結びつきはますます強くなっている。

【課題】

- 人生100年時代において誰もが生涯を通じて学び続けることのできる環境が求められている。
- 大学や学生の力を最大限に生かし、地域活動の担い手の育成やまちの課題解決に生かすことが求められている。
- 区内で多く生活する学生の自転車等の交通マナーやごみ出し等の生活マナーに対する意識が低下している。

【今後の方向性】

- 大学施設の開放や社会人向けの講座の実施など「学びのまち」の環境づくりを図る。
- 学生の持つ柔軟な発想と若々しい力には左京のまちを大きく変えていく可能性があり、生活者として自転車等の交通のマナーやごみ出しなどの生活のマナーの向上を図りながら、大学と地域がうまく交流していく。

区民の 取組	<u>地域と大学・学生との交流を図りましょう。</u> ・近くの大学に通っている学生や地域で暮らしている学生と交流を図り、若い力でまちづくりを進めましょう。 ・どの世代の人も大学等で行われる講座等に参加し、人生100年時代に向けた学び直しを進めましょう。
協働の 取組	<u>大学の発想を生かしたまちづくりを進めましょう。</u> ・学生や研究者ならではの視点を生かし、地域の課題解決とまちづくりを進めましょう。 ・学生の地域の行事への参加を促進しましょう。 ・誰もが生涯学び続けられる環境づくりを進めましょう。
行政の 取組	<u>大学・学生と地域・行政等が連携できる仕組みづくりを進めます。</u> ・区内の大学が連携し、左京区ならではの共同事業ができる仕組みづくりを進めます。 ・地域と大学・学生の協働によるまちづくりを支援するとともに、更なる情報発信を行います。

[目標3] ひとにやさしいぬくもりのまちづくり

9 子どもはぐくみ

【現状（魅力）】

- 子どもを健やかで心豊かに育むまちづくりを区民ぐるみ、地域ぐるみで実践し、「子育て・「共育」環境日本一・京都」を目指して、区役所の子どもはぐくみ室が、子育てに関する相談や手続きに対応している。
- 地域では、児童館や保育園等の子育て支援施設が中心となり、区役所やその他関係機関と連携し、親子の居場所づくりに取り組んでいる。

【課題】

- 近年の家族規模の縮小や地域社会における人間関係の希薄化により、子育て中の親が孤立しやすい状況となっており、精神的な負担感や不安感が増大している。
- 児童虐待、貧困、発達障害など、子育ての課題が多様化している。

【今後の方向性】

- 子どもは、次代の左京を担うかけがえのない宝であり、安心して安全に子どもを産み育てることができるように、地域全体で、子どもやその家族を温かく見守り、育む。
- 子育て家庭を、社会から孤立させないように、地域における親子が利用する居場所の拡充や機能強化など、気軽に悩みを相談できる環境づくりに取り組む。

区民の 取組	<u>子どもや子育て家庭を地域全体で見守り、育てましょう。</u> ・子どもや子育て家庭を地域全体で見守り、支えあいましょう。 ・見守り活動や地域行事など、地域全体で子どもや子育て家庭と関わりましょう。
協働の 取組	<u>子どもや子育て家庭の安心・安全を確保しましょう。</u> ・子どもの安心・安全を守るため、地域で支援しましょう。 ・地域行事に子どもが参加する機会を増やし、子どもが地域のことを学べるようにしましょう。 ・民生児童委員や社会福祉協議会、行政機関等が連携し、困りごとを抱える子どもや子育て家庭を支援しましょう。
行政の 取組	<u>妊娠前から育児期、青年期に至るまで、切れ目のない支援を推進します。</u> ・妊娠・出産や育児の悩みや不安を解消するため、気軽に相談できる場や、同じ悩みを持つ親・気持ちのわかりあえる者同士の集まりの場を提供します。 ・地域の子育て支援を推進するネットワーク機能を強化します。

10 健康長寿

【現状（魅力）】

- 大学生や若い世代、孤立しがちな壮年期の男性、健康に関心が低い層も対象とした健康づくりを展開している。
- 左京区独自の「左京健康なまちづくりプロジェクト」や「認知症にやさしい地域づくり部会」において「健康長寿のまち・左京」の実現と地域包括ケアの充実に向け、医療・福祉・行政・民間機関・地域住民が連携し先駆的な取組を行っている。

【課題】

- 健康への意識は区民の間でも差があり、意識の低い層に対して健康意識の醸成が必要である。
- 高齢化の進展に伴い、増加する認知症や一人暮らし、高齢者のみの世帯、そして「8050問題」のように複合的な課題を抱える世帯に対し、行政、関係機関、地域住民等が連携して、課題が深刻化する前に支援につないでいくことが必要である。
- 生活の変化によって生じる健康課題（運動不足、ストレス増大、孤立等）への対策が求められる。

【今後の方向性】

- 地域や人とのつながりの中で、運動などを通じてあらゆる世代の区民がライフステージに応じて楽しみながら取り組める、区民が主役の健康づくりを進める。
- 生涯を通じて健康で心豊かに暮らせるよう健康寿命の延伸を目標に、がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病といった生活習慣病の予防に取り組むとともに、区民の主体的な健康づくり、介護予防、フレイル予防を支える環境づくりに取り組む。
- 「人生100年時代」を迎え、認知症や一人暮らしの高齢者をはじめ、支援を必要とする人が住み慣れた地域で健やかに暮らし続けられるよう、関係団体との協働により、地域における「気づき、つなぎ、支える」力を高め、地域包括ケアシステムを推進する。
- 8050問題、ひきこもり等複合的な課題を抱える世帯の地域からの孤立の解消・防止に向け、一元化されたひきこもり相談窓口、区役所保健福祉センターが関係機関と連携して、当該世帯に寄り添った支援を行う。

※8050問題：80代の親とひきこもり状態の50代の子が同居する世帯等の孤立化・困窮化に伴うさまざまな問題。

区民の取組	<p><u>楽しみながら生涯を通じて健康づくりに取り組みましょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動・栄養・健康診査等で生活習慣病の予防に取り組み、仲間づくりや社会活動の場へ積極的に参加して、心身の機能の維持増進に努めましょう。 ・地域の見守りや支え合いにより、高齢者やその家族をはじめ、区民みんなが安心して暮らせる地域づくりに努めましょう。
協働の取組	<p><u>地域で顔の見える関係づくりを進めましょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政、民生児童委員、老人福祉員、社会福祉協議会、医療機関、介護施設等が連携し、左京区地域福祉推進委員会をはじめとした協働の仕組みを生かして、顔の見える関係づくりと地域で高齢者の生活を支援する体制を整えましょう。 ・地域の伝統行事などをきっかけに高齢世代と子ども世代の交流を進めましょう。
行政の取組	<p><u>健康づくりの機運を高め、区民が主役の「健康長寿のまち・左京」を目指します。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症など区民の生命や健康を脅かす状況に対応した正しい知識の普及啓発を図ります。 ・地域の中で、市民や関係機関・団体等が周りの区民に健康づくりを働きかけ、主体的に健康づくりの取組の輪を広げていく地域づくりを目指します。 ・健康に問題を抱えていても自分で解決できない方や支援制度のはざまの方、地域から孤立しがちな方々に寄り添った支援を行います。 ・災害時の健康二次被害に対する対策を講じます。

11 障害者福祉

【現状（魅力）】

- 左京区は、これまで地域で福祉に取り組む意識が受け継がれており、また、医療機関や福祉関係事業所などの社会資源が多く、障害のあるひとへの支援が積極的に行われている。

【課題】

- 障害福祉施策が難しくよくわからないという方も多い。
- 支援を必要とする方の地域における孤立化もある。
- 障害のあるひともないひとも、すべてのひとが地域で安心して生活するための、身近な地域での交流などの関係づくりが少ない。

【今後の方向性】

- 地域の中で正しい知識と理解が深められるように、普及啓発をさらに進めるとともに、交流活動などの取組を積極的に支援する。
- 障害のあるひともないひとも、すべてのひとが違いを認め合い、支えあう地域社会づくりのため、ネットワーク（北部障害者自立支援協議会・左京こころのふれあいネットワーク）の活動を進めていく。
- 支援を必要とする方とご家族のニーズに早期に気づき、地域で安心して健やかに暮らしていくため、地域・区役所・医療機関・福祉関係事業所が連携を深め、切れ目のない支援につなげていく。

区民の 取組	<p><u>地域で福祉に取り組む意識を受け継ぎましょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で福祉に取り組む意識を受け継ぎ、障害のあるひともないひとも、すこやかに暮らせるよう、地域の支え合いを進めましょう。
協働の 取組	<p><u>地域でいきいきとすこやかに暮らせるよう交流しましょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会を核としながら、区内にある福祉事業者等が連携し、障害のあるひともないひとも、すべてのひとがいきいきと地域で働き、すこやかに暮らせるよう、お互いの交流を深めましょう。
行政の 取組	<p><u>地域のネットワークづくりを推進します。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「重複障害」や「はざま*」、「重度障害」など、複合的な課題を抱えている人が、社会から孤立せず、必要な支援を得られるよう、行政と関係機関の連携を強化していきます。 ＊3障害（身体、知的、精神）の施策のはざま（高次脳機能障害、発達障害等）や、ライフステージの変化の際の施策のはざま（障害児施策から障害者施策への切れ目のない移行等）

12 地域コミュニティ・安心安全

【現状（魅力）】

- 左京区域は広大で、地域が育んできた歴史や文化が多様であり、地域ごとに自治会や各種団体等、様々な組織による多様な活動が行われている。
- 地域住民や学校、警察、消防等が連携しながら、すべての学区で安心・安全のまちづくりを進めており、犯罪の認知件数、交通事故発生件数ともに減少傾向にある。
- 各学区の学区民体育祭などを通して、地域コミュニティの強化が図られている。
- 左京朝カフェ、盆踊りイベントなど、新たな出会い、交流によるまちづくり活動の芽が生まれている。

【課題】

- 居住形態や生活環境の変化、少子化、高齢化、人口減少の進行、新型コロナウイルス感染防止対策に伴う地域行事の中止や規模縮小により、地域活動に参加する住民や担い手が減少し、地域力の低下が危惧されている。
- 学生が多いことから自転車利用者が多く、自転車盗が課題となっている。
- 訪日外国人へのマナー啓発や、特殊詐欺被害の防止が必要となっている。
- 若者や外国籍市民等も多く暮らしており、多様な区民が互いを尊重しながら交流できる環境づくりが求められている。
- 地域のつながりが希薄化する中、地域社会から孤立し、単身高齢世帯における孤独死などの問題が生じている。

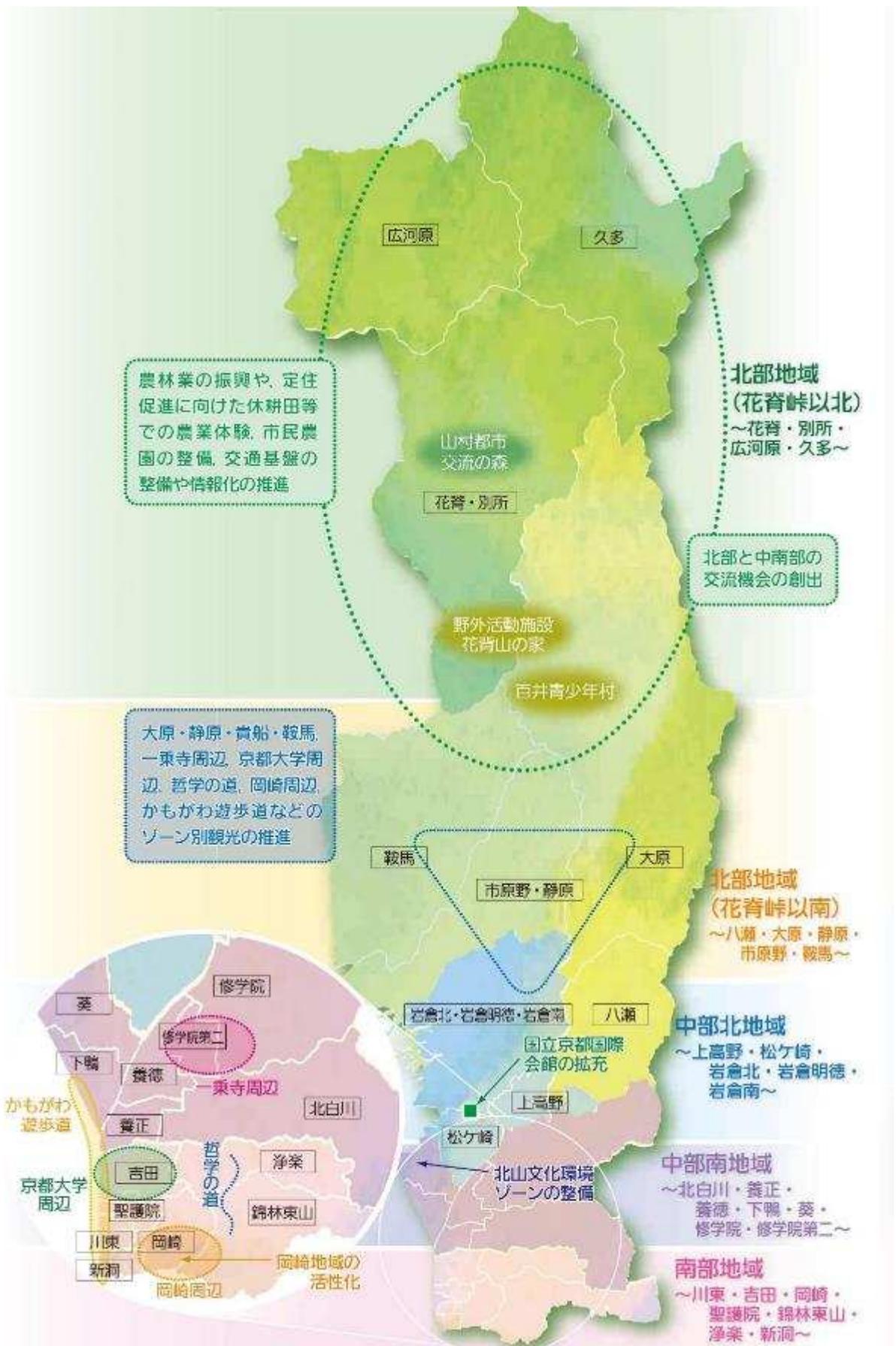
【今後の方向性】

- 区民や様々な団体が地域活動に参加しやすくなるきっかけづくりや、住民相互のつながり（顔の見える関係）の大切さ、新型コロナウイルス等感染予防策を講じた地域活動について、情報発信や取組の支援を行う。
- 世代間や地域間の連携により、地域のまちづくりの担い手の育成や、活動の維持・活性化を図る。
- 地域（各種団体、教育施設、事業所など）と行政（区役所、警察署、消防署など）の連携をより一層強固なものとし、安心安全なまちづくりを進める。特に積極的な自転車盗対策の実施を図る。

区民の取組	<p><u>互いを認め合い、交流を深め、地域活動への参加を呼びかけましょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・左京区に古くから住んでいる人、新しく転居してきた人、外国から来た人など、左京区に住むすべての人がお互いを認め合いながら、助け合い、交流を深めましょう。 ・地域コミュニティへの参加を呼びかけるとともに、若い世代の人、転入してきた人、集合住宅に住む人も気軽に参加できる工夫を考えましょう。 ・左京区の特性を踏まえ、誰でも取り組めるような身近な活動を更に展開するとともに、地域での情報共有を進めましょう。
協働の取組	<p><u>地域の団体との連携により、地域活動の輪を広げましょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT ツールを活用した地域コミュニティの維持・活性化に取り組みましょう。 ・スポーツ、福祉、教育などの地域の活動の輪を更に広げましょう。 ・地域の連携を深め、防犯・交通事故防止・防災に取り組みましょう。 ・子どもや高齢者を含めてお互いを支える仕組みづくりを進めましょう。
行政の取組	<p><u>地域間の交流と情報の共有を支援します。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民しんぶんやホームページでの地域活動等についての情報を充実させるなど、活動をしたと思っている人が活動に加わり、活動の輪が広がるよう支援します。 ・北部地域の施設との連携により、自然の魅力や課題等を共有し、交流できる機会を提供します。 ・地域間の連携を深め、情報の共有ができるよう、広報の充実を図ります。 ・区内に暮らす外国籍市民等との文化交流を図ります。

第7章 地域別の現状と課題，方向性

	現状	課題	方向性
北部地域 (花脊峠以北) (花脊・別所・広河原・久多)	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然，民俗芸能や伝統行事が多く，魅力にあふれている。 ・交流拠点や農家民宿など，北部の魅力を感じられる取組が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や少子高齢化が急速に進み，過疎化で維持が危ぶまれる集落も出てきている。 ・次代の担い手不足のため，これまで継承されてきた文化が失われ始めている。 ・山林の管理が追いつかず，気候変動等による台風・大雨等の自然災害被害が拡大している。 	中南部地域との交流を進め，定住者の増加を図りながら，美しい自然環境，農林業，伝統文化を守り育て，未来へ継承することを目指します。
北部地域 (花脊峠以南) (八瀬・大原・静岡原・市原野・鞍馬)			自然を守りながら，若者や観光客にも地域の素晴らしさをアピールし，できるだけ多くの新しい住民を迎えて活気があふれるまちづくりを進めていきます。
中部北地域 (上高野・松ヶ崎・岩倉北・岩倉明德・岩倉南)	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな文教地区であり，多様な自然や地域資源，商店等があり，住環境に恵まれている。 ・人口増加が進んでいる地域もあり，活気がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティのつながりが薄くなっており，地域課題への対応が困難になっている。 ・新規住民が増加しており，旧住民との対立や，歴史・文化の継承などの問題がある。 	文教施設や福祉施設も多く，区民の交流拠点ともなる新左京区総合庁舎などとも連携を深めながら，ぬくもりのあるすこやかなまちづくりを進めます。
中部南地域 (北白川・養正・養徳・下鴨・葵・修学院・修学院第二)			地域住民が協力し，誰もが気持ち良く行き交える美しいまちづくり，伝統行事の活性化などに取り組み，誰もが住み続けたいと愛着を感じられるまちを目指します。
南部地域 (川東・吉田・岡崎・聖護院・錦林東山・浄楽・新洞)	<ul style="list-style-type: none"> ・鴨川や吉田山があり，古くからの神社仏閣があるなど，まちなかでありながら自然や歴史にあふれた環境が整っている。 ・交通利便性がよく，京都大学や岡崎エリアがあり，生活しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が増加しており，独居世帯が増えたり，買い物難民が増えている。 ・観光客の増加等により，観光公害や交通の問題への懸念がある。 	まちを美しくし，地域の魅力を更に高めながら，地域で暮らす人や訪れる人たちが積極的に触れ合い，交流を深め，共生できる関係づくりを進めます。



各学区の人口等の状況

学区名	面積 (km ²)	世帯数 (世帯) H27. 10. 1	人口 (人)			年齢3区分別人口 (%) ※ H27. 10. 1		
			H27. 10. 1	H. 22. 10. 1	増減 (%)	15歳未満	15~64歳	65歳以上
花脊 別所	39.280	107	244	280	△12.9%	10.4	33.3	56.3
広河原	26.253	41	97	108	△10.2%	24.7	36.1	39.2
久多	34.215	41	84	100	△16.0%	10.7	38.1	51.2
北部地域 (花脊峠以北) 計	99.748	189	425	488	△12.9%	13.8	34.9	51.3
八瀬	9.883	816	1,801	1,870	△3.7%	9.1	58.0	32.9
大原	50.602	603	2,110	2,335	△9.6%	5.3	36.8	57.9
静原 市原野	16.224	2,530	6,488	6,453	+0.5%	11.0	57.5	31.5
鞍馬	24.334	212	548	592	△7.4%	7.3	50.7	41.9
北部地域 (花脊峠以南) 計	101.043	4,161	10,947	11,250	△2.7%	9.4	53.1	37.5
上高野	2.429	3,021	7,014	7,057	△0.6%	12.6	61.9	25.5
松ヶ崎	2.444	4,270	8,455	8,320	+1.6%	11.7	67.2	21.1
岩倉北 岩倉明德 岩倉南	14.018	11,213	28,396	27,112	+4.7%	15.9	58.4	25.7
中部北地域計	18.891	18,504	43,865	42,489	+3.2%	14.6	60.6	24.8
北白川	5.731	5,976	10,364	10,431	△0.6%	8.6	65.2	26.1
養正	0.630	5,225	7,758	7,847	△1.1%	5.4	71.0	23.6
養徳	0.925	8,614	14,988	14,942	+0.3%	8.4	66.7	24.9
下鴨	0.926	3,666	8,122	8,283	△1.9%	11.1	59.5	29.4
葵	1.618	5,350	11,322	11,322	+0.0%	10.1	60.6	29.3
修学院	7.456	7,385	15,642	15,894	△1.6%	10.8	61.8	27.5
修学院第二	0.668	5,903	10,291	10,442	△1.4%	10.3	68.8	20.9
中部南地域計	17.954	42,119	78,487	79,161	△0.9%	9.4	64.5	26.1
川東	0.189	1,339	2,716	2,804	△3.1%	7.7	71.7	20.6
吉田	0.998	4,878	8,983	9,081	△1.1%	9.1	66.4	24.5
岡崎	1.036	2,847	5,659	5,735	△1.3%	10.9	59.2	30.0
聖護院	0.443	2,403	4,094	4,106	△0.3%	9.6	64.6	25.8
錦林東山	4.411	1,709	3,465	3,639	△4.8%	8.6	55.4	36.0
浄楽	1.880	3,508	6,708	7,083	△5.3%	8.3	59.9	31.8
新洞	0.287	1,766	2,917	2,966	△1.7%	6.9	66.9	26.1
南部地域計	9.244	18,450	34,542	35,414	△2.5%	9.0	63.0	28.0
左京区合計	246.880	83,423	168,266	168,802	△0.3%	10.7	62.4	26.9

北部山間地域の世帯と人口の推移

学区	世帯数				人口総数			
	17 調査	22 調査	27 調査	2 推計	17 調査	22 調査	27 調査	2 推計
花脊・別所	142	125	107	97	332	280	244	210
広河原	44	47	41	42	116	108	97	114
久多	57	51	41	35	117	100	84	75
大原(百井)	19	14	14	-	36	26	25	-
	262	237	203	174	601	514	450	399

※2 推計については、大原(百井)の数値発表なし。

左京北部山間地域の現状と課題、方向性

左京北部山間地域は、過疎化で維持が危ぶまれる集落もあり、文化の継承や山林の管理も難しくなるなど、課題が深刻であるため、関係機関や専門家等と連携し、その課題や方向性について更なる検討を進めます。その際、北部地域の豊かな自然や伝統文化を区民共通の資産と捉え、中南部地域との交流や幅広い世代の連携も考慮して、ICTの浸透など、新型コロナウイルス感染防止の「新しい生活スタイル」も踏まえつつ、住環境や産業振興、保健・福祉や子育て・教育環境、都市基盤整備も含めて検討します。

<対象地域>

平成元年当時、本市基本計画で「自然産業振興地帯」と位置付けられ、京都市経済局が策定した「「ふるさと森都市」の地域づくり」（左京区北部農林業地域振興構想）の対象地域は、

花脊峠以北の久多、広河原、花脊、別所、百井、大見、尾越の7地区がある。ただし、大見、尾越には、現在、自治振興会はなく、現住している人もわずかである。



<現状>

- 左京区最北部に位置し、豊かな緑ときれいな水に恵まれた地域。山里の生活文化と信仰が今もなお残っている。
- 重要無形民俗文化財に指定されている「久多花笠踊り」をはじめ、各地域で行われている愛宕信仰からきている「松上げ」など、伝統文化が継承されている。
- 山村都市交流の森、花脊山の家を整備や農家民宿の営業、また、花脊の三本杉、京都丹波高原国定公園など高いポテンシャルを持っている地域である。

<課題>

- 世帯数、人口総数とも減少傾向に歯止めがかからず、集落としての機能を維持することが限界に近付きつつある集落が生じている。
- 農林業や伝統文化の担い手不足や高齢化により存亡の危機にある。特に花脊、別所、久多、百井の高齢者率が50%を超えている。
- 気候変動による台風・大雨等の自然災害の被害が拡大している。

<方向性>

- 自然環境の保全と地域の活性化の調和を図り、現在の住民が安心して住み続けられる環境づくりを行う。
- 農を活かした魅力創造を図り、定住者の増加を図るとともに、農林業と伝統文化の次代の担い手づくりを行う。
- 道路改良など交通手段の確保と都市基盤の整備を進める。

年齢3区分（27調査）

学区	15歳未満	15から64歳	65歳以上
花脊・別所	10.4%	33.3%	56.3%
広河原	24.7%	36.1%	39.2%
久多	10.7%	38.1%	51.2%
大原（百井）	0.0%	28.0%	72.0%
合計	13.8%	34.9%	51.3%

